



THE Y'S MEN'S CLUB OF KANAZAWA-SAIGAWA

CHARTERED IN JUNE 12, 1993

AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF
Y'S MEN'S CLUBS

THE SERVICE CLUB OF THE YMCA

KANAZAWA YMCA : 44-1, SATOMICHO, KANAZAWA, JAPAN 920-0998

<http://www.ys-chubu.jp/saigaways/>

国際会長主題	「全ての世界に出て行こう」 “Go Ye Into All the world”
スローガン	「エクステンション、エクステンション、エクステンション」 “Extension, Extension, Extension”
アジア地域会長主題	「未来を始めよう、今すぐに」 “Start Future Now”
スローガン	「ひとつのアジア、世界はひとつ」 “One Asia One World”
西日本区理事主題	「志をもって例会に参加し、学びの機会を持ちましょう。」
スローガン	「経験がワイズを育みます」
中部部長主題	「長所を活かして生き生きと！」
金沢犀川クラブ会長主題	「活力に満ちたライフを！」 “Vitalize Our Lives at the Y's Men's Club !”
会長：澤瀬 諭，副会長・会計：川村孝治，書記・直前会長：北 肇夫	

今月の聖句：信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです。
ヘブライ人への手紙 11章1節

2014年1月強調月間

IBC・DBC

地域を、部を、そして区を越えて、繋がろう！ 伝え合おう！ ワイズの魅力を！ WITH SMILE！
上村 眞智子 交流事業主任（熊本ジェーンズクラブ）

<p>☆☆☆1月第一例会案内☆☆☆</p> <p>日時：1月23日(木)19:00～21:00 会場：金沢白鳥路ホテル(金沢市丸の内6-3) 会費：3,000円 準備：平口君</p> <p>***プログラム***</p> <p>司会：竹中君 開会・点鐘：澤瀬会長 ワイズソング：一同 今月の聖句：司会者 ゲスト紹介：司会者 今月のハッピーバースデイ：澤瀬会長 該当者なし。 食前の感謝：三谷君</p> <p>— 会食 —</p> <p>卓話：「“小さな世界都市・七尾”を目指して」 森山奈美氏(榊御祓川 代表取締役社長)</p> <p>事業委員報告：各委員 ニコニコタイム：川村君 閉会・点鐘：澤瀬会長</p> <p>*例会に使用済み切手をご持参ください</p>	<p>☆☆☆12月例会報告☆☆☆</p> <p>[第一例会]金沢・金沢犀川クラブ 合同クリスマス特別例会、2013年12月19日(木)18:30～20:30、金沢ニューグランドホテル、クリスマスメッセージ：楠本史郎氏(北陸学院院長)、金沢犀川クラブ参加者：川村君・北君・澤瀬君・澤瀬メット・竹中君・平口君・三谷君 [第二例会]12月26日(木)19:00～21:00、金沢YMCA 集会室、参加者：北君・澤瀬君・竹中君・平口君。</p> <p>中部 EMC セミナー 1月18日(土)13:30～16:30、名古屋YMCA(13:00～13:30、第16回西日本区大会収束宣言会開催、YMCAへの剰余金贈呈式を挙行)、参加予定者：川村・北・澤瀬・平口。アジアユースコンホケーション西日本区報告会 1月25日(土)13:00～15:00、ホテルグライト新大阪。</p> <p>今月の聖句について 金子みすゞの詩「星とたんぽぽ」の1節「見えぬけれどももあるんだよ、見えぬものでもあるんだよ」を連想させる。この手紙は西暦90～95年頃に書かれ、当時、厳しい迫害を受けていたローマ在住キリスト教徒たちを励ますために書き送られたものである。(平口哲夫)</p> <p>2月の当番 司会：平口君、準備：川村君 *年会費後期分を納入願います。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

当クラブ	12月出席者	12月出席率	BFポイント	ニコニコタイム
正会員 5名	メン 6名	100%	前月繰越切手 2,480g	前月累計 39,940円
広義会員 0名	メネット 1名		12月分切手 4g	(合同クリスマス特別例会
功労会員 1名	ビジター 名	メーキャップ 0名	今年度累計	12月分 23,600円は
	ゲスト 名		切手 2,484g	フィリピン台風30号被災地支援に献金)
			現金 0円	
合計 6名	7名	100%		累計 39,940円

“TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT”

◆ 合同クリスマス特別例会報告 ◆

北 肇夫

金沢・金沢犀川ワイズメンズクラブ合同クリスマス特別例会は、12月19日(木)金沢ニューグランドホテルで開催された。山内ミハルワイズ(金沢クラブ)の司会のもと、幸正・金沢クラブ会長による開会挨拶と点鐘で始まったセレモニーは、厳かな中にも華やかさが感じられた。クリスマスメッセージ「自らを投げ捨てる神」は、北陸学院院長の楠本史郎氏がご自身の体験をふまえて分かりやすく語ってくださった。会場には通常のクラブバナーのほか、キャンドルや色とりどりのプレゼント・景品などが飾られ、クリスマスの雰囲気を盛り上げていた。

また、「親睦の時」と呼ばれる懇親会は、山内ワイズが司会をし、平口・中部部長(金沢犀川クラブ)がシャンパンによる乾杯の音頭をとった。ゲームやクイズでは、会場の皆さんが一つとなり、楽しい時を過ごした。ニコニコタイムは川村ワイズ(金沢犀川クラブ)が担当し、献金23,600円は金沢YMCAを通してフィリピン台風30号被災地緊急支援金に充てられることになった。閉会挨拶と点鐘は、澤瀬・金沢犀川クラブ会長が担当した。

今回、金沢犀川クラブからの参加者はメンバー6名と澤瀬ネットの計7名であったが、多くの方々と親睦を深めることができたのは、金沢クラブのみなさんのご尽力の賜物と感謝している。



◆ “今月の聖句”と“今月の讃美歌”(4) ◆

平口 哲夫

金沢犀川クラブのホームページに掲載してあるブリテン・インデックスの「今月の讃美歌」では、『讃美歌』(または『讃美歌第二編』)と『讃美歌21』とを併記して、どちらの讃美歌集にも掲載されている讃美歌を選ぶように心がけている。この作業は、両讃美歌集の歌詞を比較する機会にもなっている。

『讃美歌』(1954)や『讃美歌第二編』(1967)に比べて『讃美歌21』(1997)は、できるだけ口語化を試みた結果、理解しやすい歌詞にはなったけれども、音楽的には旧歌詞よりも劣るとか、慣れ親しんだ歌詞と違って歌いにくいとかの批判があり、編集・発行した日本基督教団に属している『讃美歌21』を採用していない教会もある。『讃美歌21』は、「難解語、差別語、不快語、国家神道用語」などを避けるように努めた点では高く評価してよいと思うが、旧歌詞よりも文学的な香りが薄れ、歌いにくいという印象を、私自身、日頃感じている。

何年前かに「縁」と「キリスト教」をキーワードにしてネット検索したことがあるが、最近、再度検索してみたところ、『「不思議なご縁で」という言葉』と題したページに出会

った。そのインデックスの“高崎裕士の「生きた証し」のサイト・・・「永遠の生命」のホームページ”に特別メッセージ2005年3月発題「讃美歌21の日本語の歌詞についてモーラ弱化ということから考える」がリンクされていた。

日本語の音節(音価)はモーラ(拍)と呼ばれている。モーラが欧米語のシラブルと大きく異なる点は、(1)撥音「ん」、「天井(tendon)」はシラブルとしては2音節ten-donだが、モーラでは4音価「て・ん・ど・ん」、(2)日本語では促音「っ」も1音価、俳人の一茶「いっ・つ・さ」は3音価だが、欧米語で“i-ssa”は2音節、(3)長音「ー」も日本語では1音価、「まー」は2音価だが、英語では“ma:”は1音節、(4)日本語では二重母音も長音と同じ、たとえば「名月や」の「め・い・げ・つ・や」の5音は、欧米語では“mei-ge-tsu-ya”の4音節、または“mei-gets-ya”の3音節。

モーラ弱化とは、母音や子音の発音が弱くなって音価を失う傾向に進むことを意味する。日本語特有のモーラが弱化しているのは、主として外国語の影響によると考えられる。歌唱におけるモーラ弱化とは、単位としてのモーラが崩れて、音節単位で発話される度合いが増すことをいう。つまり、撥音とか促音が1拍を保持できず、直前の自立拍と一体化する現象である。最近の若者の歌を高齢者が歌いにくいのもモーラの弱化が一要因となっている。

『讃美歌21』にも、「1990年代以降顕著になってきた流行歌、特にロック系の歌にみられるモーラ弱化と同じ傾向、すなわち欧米のシラブルの考え方で歌詞をメロデーに当てはめたようなところがいくつもみられ」るため、「年配者には歌いにくいし、日本語の美しさも損なわれている」と高崎先生は述べておられる。

◆ 第35回ユニセフ街頭募金報告 ◆

Yサ・ユース委員長 澤瀬 諭

12月23日(月・祝)金沢市青少年団体連絡協議会協賛の第35回ユニセフ街頭募金に金沢YMCA2名、金沢クラブ5名、金沢犀川クラブ3名の計10名が参加した。例年募金活動を行なっている堅町商店街の入り口で午後1時から2時まで実施した。



り口で午後1時から2時まで実施した。

この通りは、往時よりも人通りがめっきり少なくなっただけでなく、若者の街で募金の趣旨がなかなか伝わらなかったが、13,005円の尊い募金をいただいた。ご協力いただいた方々に心から感謝申し上げます。



《金沢YMCAのホームページ》

<http://www.vs-chubu.jp/kanazawaymca/>